

# 随想 アジアを実感する

## ベトナム訪問記

加藤 宏光

### 【ベトナム】

ベトナムを初めて訪れて、感じたこと。ベトナムの食べ物日本人に合う。ベトナム人は器用である。氣質が日本人に通ずる等々の好印象を伝え聞くことが多かった。しかし、この国を訪れる機会はなかなかなかった。今回、初めての訪問してみていることが多い。まず、ベトナムは社会主義であることから、先入観として体制の硬直を持っていなかったとは言えない。

著者にとつてのベトナム人という、米國に難民として入国したクシードライバーとして生きている人に、出張の道中で雑談をした程度であり、かつての「ベトコン」という言葉がいつもオーバーラップして必ずしも好感を持っていなかった。とはいえ、いろんな人から聞く「ベトナムはいよいよ」と

いう言葉が嘘とも思えず、百聞は一見にしかずと思ひ続けていた。

本年(二〇一〇年)一月に東京キトクフーズ(株)のご厚意で、親しかの國の実状に接する機会を得られたので概観をご紹介します。

海外経験の豊富な方々にとつて、ベトナムという國自体を事細かに述べるのは釈迦に説法とも言える。ここでは、著者の体感的印象を述べるにとどめたい。

【注意事項(ベトナム入国に当たって受けた注意)】。

1) 掏摸や置き引きが多いので、余分な金品を持たないこと

2) 余程のことがない限り生命に危険がおよぶほどのトラブルはない

街には滔々と水の流れる川のよりにバイクが走っている。信号の数は少ない。人は流れを横切るように信号のない道をゆっくりと渡っ

ている。バイクも自動車も流れを横切る人を避けてとどまることなく流れ続ける。交通事故はあまりないようである(走る速度は概して遅く、人がゆっくり行動している限りバイクや車が避けるに十分な速度であるため、事故も起きにくいのである)。こうした流れは信号で統制され、町中でもかなりの速度で規律正しく走り分けている先進諸國の交通事情に慣れていると、余程の冒険心がないと流れに踏み込めない。しかし、数時間街中を散策すると、道路を横断するタイミングとコツを身につけることができる。

その後は、喧嘩な街の流れが(音さえ無視すれば)ゆったりと動いていることを実感できる。五感や視覚情報に大きく左右されなければ、確かにこの国はまだゆったりと動いているのであろう。

### 【産業と経済】

この國の人口は現在八、七〇〇万人とのことである。この一〇年間に一、〇〇〇万人近くが増えている。人口が増えるのはエネルギーそのものであることは、小学校で日本の人口が七、〇〇〇万人と習って以来、瞬く間に一億人を超えたわが國の躍動期に育った著者にとつて身を以って体験した実感とピタリとくる。

ベトナムの八、七〇〇万人は、韓國の五、〇〇〇万人に対比しても遜色ない。アジアではフィリピンと並び人口では相当な潜在力を持つ。平均的な大卒初任給は一万五、〇〇〇円程度であるという。

これに対してガソリン価格は一〇〇円/リットルと割高。収入と物価を対比すると物価が日本に比べて四割六割で、所得が一〇分の一であれば、日本では忘れ去られているエ

ンゲル係数はかなり高くなる（ちなみにエンゲル係数は食費／収入を%で表したものである、これが四〇であれば貧困と言える）。

一方でインフラ整備やビル建設はかなりのスピードで進展していることは、街の様子から推察できる（ODAでインフラ整備が行われているとの話）。また、器用で比較的勤勉な国民性から世界の工場としての機能を受け持ち始めていることから、外貨準備高は増えつつある。この進捗過程は中国に準ずるものである。因みに、ベトナムは一〇年遅れで中国を追い抜いているという。現在中国の大都市に見るバブルを思わせる経済沸騰（かなり政策的なものを感じることが）や極端な所得格差はこの国でも起きるべくして起きよう。

【電線】

恐ろしいほどの電線の束が無秩序に張り巡らされている。経済とインフラがいかに無計画に展開してきたかを如実に表すものの一つであろう。高圧線で送電し、家庭への配電はトランスを用いて減圧するシステムが当たり前の光景に慣れた著者の目にはいかにも異様

に感じられた（現在わが国では電線、電話線、光回線等がまとめて地下に埋設されるいわゆる共同溝設備が拡充されつつあり、東京をはじめとして中核都市のメイン通り中心として徐々に拡充されつつあり、光景に統一感を与え印象度がさらに向上している）。

【ベトナム戦争記念館】

著者の学生時代にケネディ前米大統領が始めたベトナム戦争（一九六〇〜一九七五）の記念館を見て、その凄惨な写真に息を吞んだ。広島で見た原爆記念館で与えられたショックと同じ種類のものである。米国は第二次世界大戦の「覇者」として世界に君臨し、その後朝鮮戦争（一九五〇〜一九五三年、米国と旧ソ連の代理戦争の側面がある。五三年の七月に休戦以来現在に至る）で相応の勝利感を持ったのであろう。

それらの成功体験をもって、ベトナム戦争におよび、実質敗退した。また、九・一一ニューヨークの世界貿易ビルを倒壊させたテロ事件以来泥沼への道を開いたアフガン、イラク戦争についても、同じく成功体験に基づいた行動だっ

たのではないだろうか？！

圧倒的な物量を武器として、比較劣位にあったベトナムを制圧できなかったことに、その後のアフガン、イラクでもがく米国の姿を重ねることに無理はないような気がしてならない。

【気質】

おもしろい記事を紹介された。その概要は以下のとおりである。

あるベトナム支社で日本人上司が部下で遅刻常習犯のベトナム人に、彼のみが週に何度も遅刻することにに関して注意を与える。しかし、彼はその度に言い訳をするのみで決して謝罪しようとしないう。言い訳として、親族が死んだ。道路の渋滞がひどかった等々。

それらの条件を等しくする他の従業員が時間通り出社していることをあげて、上司は彼に苦言を呈する。

上司「なぜ今日も遅刻をしたのか。従業員・交通渋滞がひどくて？」  
上司「ここにいるみんな通勤の条件はそんなに違わない。君だけが渋滞とは納得できない」  
従業員「みんなと通るルートが違う」

上司「それにしても、少し早く出て間に合うようにすべきだ。第一君は遅れているのに謝りもしない。従業員・遅刻の分給料から差し引かれている。それなのになぜ謝る必要があるのか？」

上司「遅れることでみんなに迷惑がかかっているのだから」とにかく悪いという意識があれば謝るはずだ。

従業員「ならば、私が遅れずに出社したら、あなたは私に謝るか？上司……？？」

この記事が本当かどうかは知らないが、ベトナム気質を表すものだとの紹介があった。

そして、道中の飛行機の中で聞いた新聞に次の記事があった。

忌引 うそ申請高校事務局長免職  
神奈川県教委

神奈川県教育委員会は十三日、うその申請で三年間に計八回の忌引を不正取得していたとして県立高校の事務局長を懲戒免職。彼は〇六年六月〜〇九年八月に自分の叔父・叔母を計四人、妻の叔母を計四人死んだことにし、計九日間の忌引を不正取得。云々。日本人もなかなかやるではないか！！